

2015年3月6日



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista
São Paulo, SP – 01310-925

1. マーケット・レート

			3月2日	3月3日	3月4日	3月5日	3月6日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	2.8950	2.9320	2.9800	3.0030	3.0640	+0.0610
	BRL/JPY	Spot	41.53	40.82	40.18	39.99	39.42	-0.57
	EUR/USD	Spot	1.1182	1.1174	1.1078	1.1027	1.0851	-0.0176
	USD/JPY	Spot	120.18	119.71	119.71	120.15	120.73	+0.58
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	12.96	12.97	13.04	13.12	13.27	+0.1550
	Future	1Year(p.a.)	13.13	13.17	13.24	13.36	13.53	+0.1734
	On-shore	6MTH(p.a.)	1.687	1.752	1.820	1.789	1.791	+0.002
	USD	1Year(p.a.)	2.380	2.477	2.514	2.510	2.519	+0.009
株式	Bovespa指数		51,020.81	51,304.10	50,468.05	50,365.20	49,981.19	-384.01
CDS	CDS Brazil 5y		243.00	237.00	248.34	253.00	255.73	+2.72
商品	CRB指数		221.979	222.025	223.200	222.116	220.137	-1.979

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2. 週間市況、トピックス

- 今週のレアルは週間高値となる2.8460で寄り付いた。週初に発表された中銀によるアナリスト予想調査では2015年のGDP予想が9週間連続で下方修正され、前年比-0.5%から-0.58%まで引き下げられた。一方、2015年末のインフレ率予想は9週連続で上方修正され、7.33%から7.47%に引き上げられた。伯経済見通しが弱まっていることに加え、中銀が3月に入ってドル売りポジションの増額を停止したことを受けて介入圧力を弱めるサインと受け取った市場参加者からのレアル売りもあり、レアルは2.9台前半までギリ安となった。
- 週央からは増税を含んだ予算案が上院を通過できなかったことを受けて、財政改革が難航し格下げのリスクが高まったと捉えた市場参加者のレアル売りで、レアル安に拍車がかかった。伯中銀はインフレ抑制のために政策金利を0.5%引き上げ、2009年1月以来となる12.75%への利上げを行ったが、市場予想の範囲内で反応は鈍く、財政懸念からレアルは2004年8月以降初めて大台の3.00を下抜けた。中国の全人代では予想通り2015年の経済成長目標が7.5%から7.0%に引き下げられ、ECBでは国債の買い入れを3月9日から開始することが発表された。
- 週末にかけては2月の米雇用統計が市場予想を大きく上回ったことを受けてドル全面高の展開となり、レアルは更に売られた。週間安値となる3.0710を示現し、結局3.0640で越過となった。

3. 今週のチャート&ハイライト

USD/BRL ヒストリカルチャート



レアルは10年7ヶ月ぶりの安値を示現

増税を軸とした予算案が議会の支持を得られないとの見方から、伯国債が格下げされて投資不適格債に転落する懸念が広まり、レアルは対ドルで2004年8月以来の安値となる3.07台を示現した。バルボッサ企画相からの過度な為替変動が経済の回復の妨げとなり得るとのコメントも出たが、外貨準備残高は維持すべきとされ、実弾介入には否定的。中銀からも介入プログラムを拡大する動きは出しておらず、更なるレアル安を懸念する声強い。

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべて お客様御自身でご判断下さいませう。宜しく願ひ申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。

2015年3月6日



4.来週の為替市場注目点

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista

予想ドル・レアル相場レンジ：2.95－3.15

来週は週初にユーロ財務相会合、12日にブラジルでCOPOM議事録の公表などがあるが、今週に比べると大きなイベントに乏しい。本日発表された2月の米雇用統計はNFPが前月比295千人増加となり、市場予想の235千人を大きく上回った。失業率も5.5%と約7年ぶりの水準まで低下した。市場からは米国の雇用回復は非常に強いとの評価でドル全面高の展開となっている。来週初からECBのQEが開始することもあり、週前半はドルの堅調が続くだろう。週後半には17-18日のFOMCをにらんで利益確定のポジション調整が出てくると予想するが、一時的な動きに留まり、ドル高傾向に変わりはないと予想する。

レアルは台の3.00を下抜けて更に軟調推移しているが、当局からは大きな動きは出ていない。外貨準備を使った実弾介入など、新たな介入プログラムなどの対応が出てくれば潮目が変わる可能性もあるが今の所そう言った動きは見られない。予算案審議に進展がなければレアルが下落トレンドから抜けるの難しいと見ている。レアルは下値を試す展開が続こう。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	0.40%	0.53%	0.67%
ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前月比)	1.1%	1.22%	1.24%
ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	7.56%	7.70%	7.14%
米	非農業部門雇用者数	235K	295K	239K
米	失業率	5.6%	5.5%	5.7%
米	貿易収支	-\$41.1B	-\$41.8B	-\$45.6B

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	3/9	FGV CPI IPC-S	Mar-08	1.14%	0.97%
ブラジル	3/9	貿易収支(週次)	Mar-08	--	--
ブラジル	3/10	IGP-M Inflation 1st Preview	Mar	0.61%	0.09%
米	3/10	卸売在庫(前月比)	Jan	-0.1%	0.1%
米	3/11	MBA住宅ローン申請指数	Mar-06	--	0.1%
米	3/11	月次財政収支	Feb	-\$187.0B	--
ブラジル	3/12	FIPE CPI-週次	Mar-07	--	1.4%
独	3/12	消費者物価指数(前年比)	Feb F	0.1%	0.1%
米	3/12	小売売上高(前月比)	Feb	0.4%	-0.8%
米	3/12	新規失業保険申請件数	Mar-07	305K	320K
ブラジル	3/13	広義小売売上高(前年比)	Jan	-7.8%	-2.2%
ブラジル	3/13	小売売上高(前月比)	Jan	-0.6%	-2.6%
ブラジル	3/13	小売売上高(前年比)	Jan	-1.40%	0.30%
ブラジル	3/13	広義小売売上高(前月比)	Jan	-2.70%	-3.70%
米	3/13	PPI 最終需要(前月比)	Feb	0.3%	-0.8%

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいませう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。